

少し暑さが和らいだ感じ？

気温が少し下がったようです

これを書いているのは九月五日です。

もしかすると、県内に被害を出すかと思われた台風12号も、いきなり勢力を弱めて通過してしまい、ここ松浦市では特段被害もなく過ぎることができました。それなりに雨も降り、すこしだけ土も潤ったのではないのでしょうか。

厳しいと予想された残暑は、これを書いている時点ではそれほど厳しいものではなく、気温が30℃を上回る日も少なくなっています。

朝晩の気温も少し下がってきて、しのぎやすくなってきました。このまま秋に突入すればなあと思えますが、気象庁の予想などを見ていると、まだまだ注意が必要だといわれています。

このように気温が変動する時期は、体調管理なども気をつけなければなりません。毎度同じことを書いているような気がしますが、よく食べよく寝てよく動いて、体をしっかりと維持していくことが大事です。頑張りましょう。



季節の言葉あれこれ

さて、今回も「季節の言葉あれこれ」ということで、季節にちなんだ言葉をご紹介します。コーナーです。

【玄鳥去】(つばめ・さる)

七十二候の第45番目。

二十四節気「白露」の末候にあたります。

今年は9月17日からの5日間。

暦の本によつては【燕去る】と書いてあるものもありますが、同じ候を指します。

意味はそのまま

——燕が南へ帰って行く

春先にはるか南方から飛来し、日本で繁殖するこの鳥。この時期になると冬を越すためにまた南方へと帰って行きます。

調べてみると、その越冬する地域は台湾から東南アジアの島々だそう。ずいぶん遠く旅をする鳥なのです。びっくりです。

燕は繁殖のために家の軒下などによく巣作りをしています。皆さんも一度ならざご覧になったことがおありだと思えます。

古来から「燕が巣を作ると家が栄える」といわれ、その巣は大切にされてきました。

ちなみに、燕が巣を作る場所として選ぶのは「繁殖にとって安全な場所であること」が第一とのこと。

人間が住む環境はそういう意味では適しているらしく、軒先などに巣を作るのは、そういった習性が働いているからだといわれています。

また、そういう家は人の出入りも多いとして、「商売繁盛にもつながる印」として大事にしているという言い伝えもあります。

さらに、燕は稲作農家にとっては害虫を食べてくれるので、いわゆる「益鳥」として大切にされていたそう。

そのように昔から大切にされてきた燕ですが、最近ではその個体数も少なくなっていて、地域によっては「保護が必要な生物」として指定されていたりするようです。

これには、人間の住環境などの変化や土壌の汚染、気候変動などによる影響もあるといわれています。

日本人にもなじみ深いこの鳥の姿が、子孫の代までいつまでも見られるようにしたいですね。

